村に伝わる伝説（春明）

大昔、木曽川の大洪水がたびたびあって、この付近も何回か大洪水に見舞われておりました。今の西砂住宅のある所は、大昔河原であったと言われております。私の子どもの頃畑を起こしてみますと、昔の人が魚をとるときに使ったおもりが鍬の先に当たって出てきたものです。今でも住宅の前を１メートル以上掘ると、コンクリートに使う砂利の層に当たりますが、そこが大昔の川原であると思います。

今の市営住宅・文化広場・松風園団地・北側の工場のある所は、私の子どもの頃は山林で、昼でも薄暗くて一人では通ることもできませんでした。その当時はキツネもたくさんおりましたし、猟師が手に鉄砲を持ってキツネを撃ちによくきておりました。

春明という所は、昔は下奈良と言っておりました。北側に今でもありますのが上奈良、東側には中奈良がそのままで残っております。昔は尾張の三奈良と言っており、現在の奈良県の春日神社の分身が祭られておるお宮さんです。

ほかの所の神社は、たいていどこでも、お馬の像が建っておりますが、私の方のお宮さんは春日神社ですから、奈良と同じ鹿の像が建っております。そういう所がよそとは違うお宮さんですね。

それから明治１０年、下奈良村の春日神社の「春」と、西隣の下奈良酉（とり）新田の神明（しんめい）社の「明」をとって「春明」村と名前を改めましたが、合併した後もなかなかうまくいかなかったので、昭和１１年にまた、酉新田と分かれることになりました。今は春明、酉新田と別々の町内組織で運営しています。

春明という名前はそのまま残りましたが、行政上の下奈良は昔の名前になってしまいました。これが下奈良から春明となったいきさつです。

（５５歳男性　談）

《出典：「郷土史・わが町春明」　平成 19 年 9 月 20 日発行》